

2 学習評価の基本的な枠組みと改善の方向性



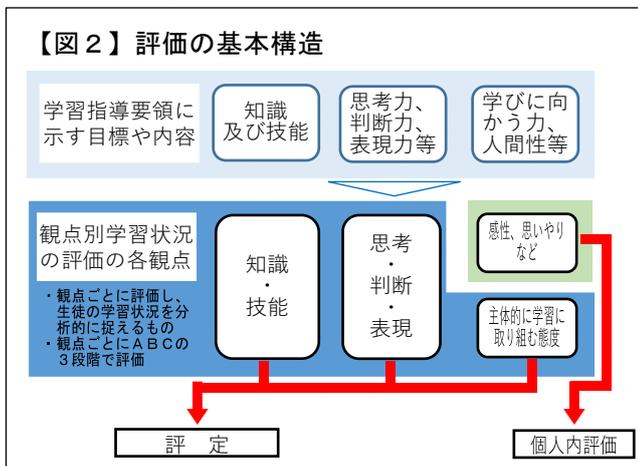
解説動画

学習評価は、学校における教育活動に関し、生徒の学習状況を評価するものです。教師が生徒の学習状況を的確に捉え、指導の改善を図るとともに、生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるよう、学習評価の在り方を改善することが重要です。

◆ 学習評価の基本的な枠組み

各教科の評価については、学習状況を分析的に捉える「観点別学習状況の評価」と、これらを総括的に捉える「評定」の両方について、学習指導要領に定める目標に準拠した評価として実施します。（目標準拠評価）

図2のように、感性や思いやりなど観点別学習状況の評価や評定には示しきれない生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況については、「個人内評価」として実施します。



※目標準拠評価は、集団内での相対的な位置付けを評価するいわゆる相対評価とは異なります。

◆ 観点別学習状況の評価

各教科等の目標や内容が「資質・能力の三つの柱」に基づいて整理されたことを踏まえ、観点別学習状況の評価の観点が3観点到整理されました。

各観点の評価に当たっては、各教科等の特質を踏まえて適切に評価方法等を工夫することにより、学習評価の結果が生徒の学習や教師による指導の改善につながるものとすることが重要です。

◆ 評定について

評定は、各教科の観点別学習状況の評価を総括した数値を示すものです。評定は、生徒がどの教科の学習に望ましい学習状況が認められ、どの教科の学習に課題が認められるのかを明らかにすることにより、教育課程全体を見渡した学習状況の把握と指導や学習の改善に生かすことを可能とするものです。

学習評価の結果は、カリキュラム・マネジメントの実施状況の評価に当たり、客観的な諸調査の結果とともに、重要な資料の一つとなります。

各学校においては、観点別学習状況の評価の観点ごとの総括及び評定への総括の考え方や方法について、教師間で共通理解を図り、生徒及び保護者に十分説明し理解を得ることが大切です。

◆ 「知識・技能」の評価について

「知識・技能」の評価は、各教科等における学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについて評価するものです。

このような考え方は、従前の評価の観点である「知識・理解」、「技能」においても重視してきたところですが、今回の学習指導要領に示された知識及び技能に関わる目標や内容の規定を踏まえ、各教科等の特質に応じた評価方法の工夫改善を進めることが重要です。

具体的な評価方法としては、ペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮するなどの工夫改善を図るとともに、例えば、生徒が文章による説明をしたり、各教科等の内容の特質に応じて、観察・実験をしたり、式やグラフで表現したりするなど実際に知識や技能を用いる場面を設けるなど、多様な方法を適切に取り入れていくことが考えられます。

【事例1】外国語科 第1学年

(2) ペーパーテストやワークシートの問題の作成方法

テスト問題を作成する際、以下の項目を確認しながら進めることが大切である。

- 評価する言語材料を何にするかを定める。
- 出題のねらい（主として評価するのは、「知識」か「技能」か）を決める。
- 文脈や使用場面がある問題を作成する。
※以下に、文脈や使用場面がない問題例を示す。
- 解答する際に使用する言語材料を明示していないかどうかを確認する。
- 出題方法（多肢選択式、記述式等）を決める
- 評価する対象の言語材料以外の言語材料における誤りや減点したり誤答としたりといった採点基準になっていないかを確認する。
- 「知識・技能」の問題の配点が高くなりすぎているかを確認する。

(参考) 文脈や使用場面がない問題例

例1：以下の文から1カ所誤りを探して、現在進行形の文に訂正しなさい。
I'm just watch TV.

例2：以下の単語を並べ替えて正しい文を作りなさい。文頭に来る単語も小文字になっています。
(A playing I are U now E we O basketball)

【『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料】中学校外国語から】

◆ 「思考・判断・表現」の評価について

「思考・判断・表現」の評価は、各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決するなどのために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価するものです。

このような考え方は、従前の「思考・判断・表現」の観点においても重視してきたところですが、今回の学習指導要領に示された、各教科等における思考力、判断力、表現力等に関わる目標や内容の規定を踏まえ、各教科等の特質に応じた評価方法の工夫改善を進めることが重要です。

具体的な評価方法としては、ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなど評価方法を工夫することが考えられます。

【事例2】技術・家庭科

災害時の問題を解決しよう！ 【構想レポート】

1. 電源、負荷、スイッチに分けて、実現したい機能とそれに必要な部品を書きましょう。

	電源	負荷	スイッチ
実現したい機能	記述例：いろいろな場所で使えるよう持ち運びができて、簡単に交換できる電源にする。	記述例：停電時に短い足元などを照らすように、LEDを並列にしてより明るくする。	記述例：地震で裏側が倒れたらスイッチが入るようにする。
必要な部品	<input checked="" type="checkbox"/> 乾電池 <input type="checkbox"/> ボタン電池 <input type="checkbox"/> USB 5V <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> LED（白色を2個） <input type="checkbox"/> オルゴール <input type="checkbox"/> 振動モータ <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> トグルスイッチ <input type="checkbox"/> 押しボタンスイッチ <input type="checkbox"/> トランジスタで自動スイッチ <input checked="" type="checkbox"/> その他 記述例：マイクロスイッチ

2. 使用する時に便利な機能や安全機能など、工夫できそうなことがあれば書きましょう。

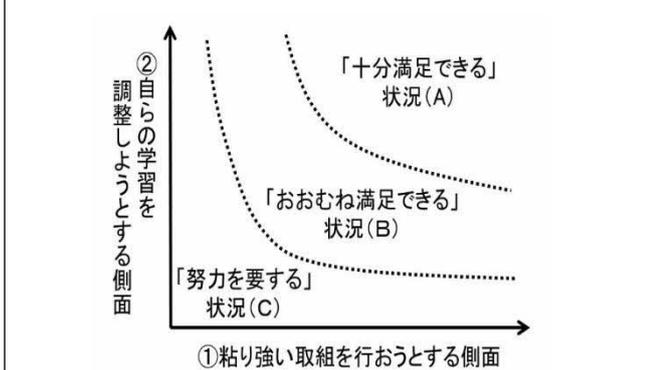
記述例：停電した時だけでなく部屋暗くなったら自動で点灯する機能をつける。これで廊下の足元の照明として日常的に使用できて停電の時に使えない。

【『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」中学校技術・家庭から】

◆ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかという意思的な側面を評価するものです。

【図3】「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ



本観点に基づく評価としては、【図3】のとおり、「主体的に学習に取り組む態度」に係る各教科等の評価の観点の趣旨に照らし、①「知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面」と、②「①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面」という二つの側面を評価することが求められます。

具体的な評価の方法としては、ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や、生徒による自己評価や相互評価等の状況を、教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いることなどが考えられます。その際、各教科等の特質に応じて、生徒の発達の段階や一人一人の個性を十分に考慮しながら、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で、評価を行う必要があります。したがって、例えば、ノートにおける特定の記述などを取り出して、他の観点から切り離して「主体的に学習に取り組む態度」として評価することは適切ではないことに留意する必要があります。

【事例3】国語科 第2学年 C読むこと 単元名「清少納言と自分のものの見方や考え方を比べる」

【生徒Xの振り返りシートの記述】

(第2時)	○前時までに学習したことで、本時の学習に役立ったこと。 1時間目の授業を受けて、清少納言のものの見方や考え方をどう捉えればよいのか大体分かっていたので、今日は現代語訳をそういう観点で読んでいった。原文が書いてあったので、今の言葉との違いも見付けながら考えた。
(第3時)	○本単元で課題を解決するために試行錯誤したこと。 清少納言と自分のものの見方や考え方の特徴を説明するのが難しかったので、共通点と相違点をいくつか書き出したり、友達に説明して意見を聞いたりした。

一単位時間の終わりに教師が振り返りの項目を示して振り返りシートに記述させた内容と、個々の生徒の学習状況を観察することを併用した。

第3時の記述には、「共通点と相違点をいくつか書き出したり、友達に説明して意見を聞いたりした」とあり、積極的に学習課題について考える様子が観察されたことから「おおむね満足できる」状況と判断した。

【『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」中学校国語から】

「主体的に学習に取り組む態度」の評価に当たっては、生徒が自らの理解の状況を振り返ることができるような発問の工夫をしたり、自らの考えを記述したり話し合ったりする場面、他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場面を単元や題材などの内容のまとまりの中で設けたりするなど、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図る中で、適切に評価できるようにしていくことが重要です。